

平成30年度 第3回公立大学法人公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成31年2月8日（金） 10:30～12:00
- 場 所 大会議室（本部講義棟3階）
- 出席者 江崎信芳委員、宇佐美誠委員、片木威委員、田中仁成委員、中島廣光委員、山本仁志委員、今井正和委員、遠藤由美子委員、小林朋道委員、矢野順治委員、横山伸也委員、吉永郁生委員、齊藤明紀委員、張漢賢委員
[14名/15名]
- 欠席者 尾室高志委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 協議事項

(1) 平成31年度当初予算編成について

事務局長から平成31年度当初予算編成について説明があり、意見等を検討しながら今後進めることになった。

<主な意見等>

- ・運営費交付金が減額になったのは、様々な立場で評価は違うが、大学はどのように捉えているのか。10億を初めて切って、一方で同じような額で修繕費が増えているが、相殺されている印象を受けるが、どうなのか。

傾向として運営費交付金は暫時漸減していくのかなと感想を持つが、これはいかがか。

→ 運営費交付金が削られたから、寄附金債務収益化をするというわけではない。

黒字経営で目的積立金が出ているので、今は健全経営が出来ているが、漸減傾向が続くと困ることがある。県内から本学に進学してきた学生の奨励金は、県市と我々との折半であったが、急に全額持つことになった。制度が始まって4年経つと4年生までの措置となり、また、25%は鳥取県の高等学校から入れると計画しており、6,000万ぐらいの負担になる。黒字経営の状況が変わってくる。学生にいいことをしているのだが、運営的には苦しい見通しとなっている。

県市の運営費交付金というのは、毎年協議である。国から県市に入る一人当たりの金額自体が毎年少しずつ下がっているという状況もあるが、10億を切ったのでなんとか協議していきたいと思っている。

- ・内部質保証で組織をつくるとあるが、新たに人を雇う人件費が計上してあるのか。
→ 内部のなかで推進本部をつくる。予算として出てくるのは、学長の特命を受ける位置づけを設けましたので、その役職手当がプラスになる。
- ・国際交流について、欧米の大学交流するのは大事だと思うが、同時にアジアは提携先としていいところが非常にあると思う。フィリピンは英語を皆が話すので、キャンパスの内外で英語環境に学生を預けられる。あと、インドネシア、中国でも堪能な学生は増えている。

アジアを将来の提携先の候補として考えてはどうか。

→ フィリピン等のアジアを視野に入れることは重要だと考えている。特にフィリピンは近いし、英語ベースであるということで力を入れたい。

- ・若手の先生に競争的研究資金の申請のインセンティブをどうやって与えるか、大変難しいが、検討を進めてほしい。

3 審議事項

(1) 平成33(2021)年度公立鳥取環境大学入学者選抜について

事務局から、平成33(2021)年度公立鳥取環境大学入学者選抜について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・県内の高校だと、12月の学校推薦型選抜と2月の学校推薦型選抜の2回チャンスがあるのか。
 - 県外の高校からすると残念なところでもあるが、鳥取県、鳥取市が設置している大学であるので理解いただきたい。バランスはしっかり考える。
- ・英語の外部試験を加点するということで、外部試験を受験しないと大学受験できないなどの議論を他大学ではしているが、どのようにされるのか。
 - 英語の外部試験を受けていただくと考えている。

4 報告事項

(1) 平成31年度に向けた組織体制の整備等に伴う関係規程の整備について

事務局から、平成31年度に向けた組織体制の整備等に伴う関係規程の整備について報告があった。

(2) 近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

5 閉会